

# 中信地方松本市以北の鳥追い

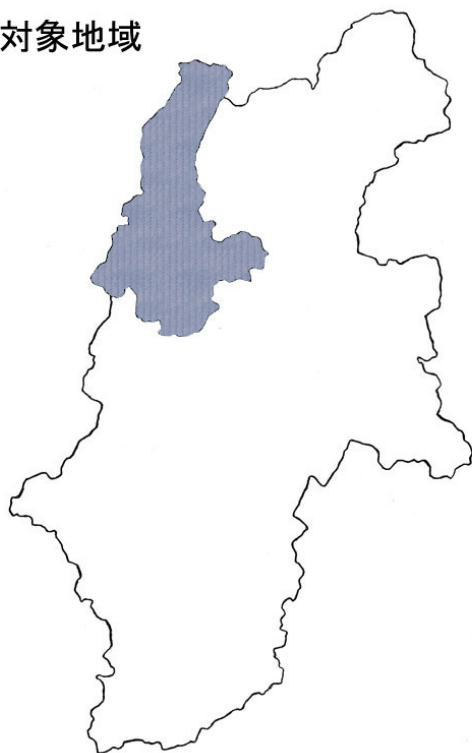
上 條 厚

キーワード：した しなかった 分類 ～型 変形

## 1. 始めに

筆者は前稿（上條(2012)）において、旧松本市（2002年時点）とそれに隣接する山形村・朝日村の鳥追いについて述べた。本稿はそれに続き、中信地方の松本市以北について述べる。本稿の対象とする地域は次の図に示すとおりである。

対象地域



鳥追いは小正月かそれに近い日に行われることが多かった。一般に子供の行事である。本稿当該の地域で現在（2013年）子供たちにより鳥追いが行われているのは、安曇野市三郷・池田町会染・池田町陸郷・大町市八坂であるが、それ以外の地域では今のところ、行われているという情報はない。以前は広い範囲で行われていた。本稿は鳥追いについて述べるが、高年齢の人たち（一部、中年の人）が子供のころ行ったものについてである。

当該の地域を2002時点の市町村区画で見ることとし、また旧大町市については大町市となる1954年以前の行政区画で見ることとする。

以下で資料とする調査は2011年2月～2012年12月に行った。以下に掲げる図1・図

2を見れば分かるように、地域により調査の濃淡がある。特に豊科は現在のところ、調査の目途は立っているものの、いまだ1人も調査できていない。旧大町市（大町・平・常磐・社）は、昔したという人でも歌を覚えていないことが多く、資料として不十分である。これらは近いうちに補いたいと考えている。（なお明科は情報を大分いただいたが、人を介しての情報であり、答えた人の住所と生年が分からないので参考のみの資料とし、その情報は以下では扱わない）

調査は以下に述べる各事項に関して行った。調査にご協力いただいたのは高年齢の人が中心である。

前稿（上條(2012)）で、この行事の名称に関することと、七草の歌との関連につい

て触れた。調査した中でこの行事の名称については、「鳥追い」以外の回答は一切聞かれなかった。七草の歌に関して当該地域では、祖母が歌いながらしたのを聞いたことがあるとする回答（表1の 三郷1）と、した家もあるが自分の家ではしなかったとする回答（同 八坂2）が1つずつあったのみである。

## 2. 回答結果

調査に多数の人が協力してくださった。その回答結果は以下の如くである。ご協力いただきながらも、当該地域の出身ではないなどの理由で、回答を以下に反映できないものがあることを断っておく。

回答は、「鳥追いをした」「したが歌を少ししか覚えていない、あるいは歌を覚えていない」「しなかった」の、3つに分けられる。したという回答の人には地域別に番号を付ける。個人情報に配慮し、住所は番地の百番台までを記す。

### ○鳥追いをしたとの回答

回答に基づき、日時・形態等を表にする。表1のようになる。

鳥追いをしたという場合も、歌を伴わない、語句だけを言うものもあった。

表1 鳥追いをしたとの回答

- ・「日時」は鳥追いの日と時間帯。「15朝」等は1月15日の朝等を表す。
- ・「形態」で、「各戸」は各家ごと、「集団」は集団で行うことを表す。
- ・「たたかれる物」「たたく物」は、歌を歌いながらたたく物である。（）内は材料が決まっている場合の材料、「毎年作」は毎年作ると確認したことを表す。
- ・「詞」は歌詞である。「詞」「曲」の、○は回答あり、／は回答なしを、「詞」の△は語句のみで歌はないことを表す。
- ・「？」は記憶があいまいであることを表す。
- ・「－」は未調査（調査漏れ）を表す。
- ・空欄は、自分の体験した行事ではないため回答できないことを示す。

地区	番号	住所	生年	日時	形態	たたかれる物	たたく物	詞	曲
安曇野市	三郷	1 温43**	1935	14夜・15昼	集団	太鼓・鼓		○	○
		2 温34**	1927					○	○
	堀金	1 烏川1**	1924	14昼	集団	カンカラ(1)	棒	○	○
	穂高	1 有明57**	1926					○	/
	明科	1 七貴73**	1933	?1月中旬	－	箕	－	○	/
生坂村	1	16**	1920	15朝	集団	羽子板	杵(柳)	○	○
	2	北陸郷97**	1938	15朝	集団	羽子板	杵(柳、毎年作)	○	○
	3	東広津7**	1935	15夕	各戸	羽子板	棒(柳、毎年作)	○	○
	1	会染13**	1965	(2)	集団	拍子木		○	○
	2	会染2**	1930	4朝	集団	拍子木		○	○

池田町	3	陸郷102**	1916	15朝	集団	羽子板	杵 (柳)	○	○	
	4	陸郷108**	1951	15朝	集団	羽子板	杵 (柳)	○	○	
	5	広津59**	1926	15朝	集団	羽子板	棒 (柳)	○	○	
松川村	1	13**	1931	15朝	各戸	バケツ	棒	○	○	
	2	70**	1933	14昼	集団	缶詰の缶	棒	○	/	
大町市	平	1	24**	1936	15朝	各戸	拍子木	○	○	
		八坂	1	150**	1926	14夜	各戸	羽子板	杵 (コウゾ)	○
	2		71**	1927	15朝	各戸	板・羽子板	杵 (クルミ、毎年作)	○	○
	3		84**	1934	15朝	各戸	板	杵	○	○
	4		84**	1925	15朝	集団	板	杵	○	○
	美麻	1	27**	1920	14夕	各戸	羽子板	杵	○	○
		2	110**	1926	15朝	各戸	板	杵 (ミズキ)	○	○
		3	149**	1918	15夜	各戸	板・そり	杵 (柳)	○	○
		4	189**	1924	15朝	集団	羽子板	棒	○	/
		5	225**	1930	15朝	集団	羽子板	棒	○	○
	6	302**	1933	?	集団	カンカラ・太鼓	棒	△	なし	
白馬村	1	北城72**	1926	15朝	集団	板2枚 (クルミ、毎年作)	○	○		
	2	北城131**	1922	?	集団	—	△	なし		
	3	北城130**	1937	?	集団	金物	棒	△	なし	
	4	北城176**	1926	15朝	集団	羽子板 (毎年作)	槌 (クルミ、毎年作)	○	なし	
小谷村	1	千国乙67**	1931	15夜	集団	雪かき	棒	○	/	
	2	千国乙67**	1936	15夜	集団	雪かき	棒	○	○	
	3	千国乙67**	1936	15夜	集団	雪かき	棒	○	○	
	4	小谷丙25**	1934	15夜	集団	雪かき	棒	○	○	
	5	中土74**	1931	15朝	各戸	板壁	槌 (クルミ、毎年作)	○	○	
	6	北小谷17**	1928	16朝	集団	雪かき	棒	○	○	
	7	北小谷45**	1930	14夜	集団	雪かき	棒	○	○	

注 (1) 缶のこと。

(2) 若い人で旧時のことは分からないので空欄とした。

・堀金1、穂高1、生坂2、平1、八坂1 は女性。

○ 鳥追いをしたが歌を少ししか覚えていない、あるいは歌を覚えていないとの回答  
「歌を少ししか覚えていない」の回答の人の住所・生年は次のとおり。図1では  
● で示す。(図2にはない)

・大町市常盤27\*\* 1930生 ・大町市平63\*\* 1926生

「歌を覚えていない」の回答の人の住所・生年は次のとおり。図1・図2では ○

で示す。

- ・生坂村北陸郷98\*\* 1953生 ・生坂村東広津140\*\* 1933生 ・池田町広津33\*\* 1934生
- ・大町市社\*\* 1937生 ・大町市社11\*\* 1936生 ・大町市平76\*\* 1922生
- ・大町市美麻150\*\* 1927生 ・白馬村北城22\*\* 1936生 ・白馬村北城105\*\* 1932生

### ○鳥追いをしなかったとの回答

この回答の人の住所・生年は次のとおり。図1・図2では × で示す。

- ・安曇野市三郷小倉58\*\* 1938生 ・安曇野市三郷温55\*\* 1935生
- ・安曇野市三郷明盛28\*\* 1932生 ・安曇野市堀金烏川25\*\* 1926生
- ・安曇野市堀金烏川48\*\* 1934生 ・安曇野市穂高柏原6\*\* 1936生
- ・安曇野市穂高柏原39\*\* 1932生 ・安曇野市穂高13\* 1933生
- ・安曇野市穂高64\*\* 1926生 ・安曇野市穂高有明31\*\* 1936生
- ・安曇野市明科中川手39\*\* 1926生 ・筑北村東条27\*\* 1930生
- ・筑北村坂井79\*\* 1930生 ・筑北村坂井94\*\* 1931生 ・筑北村坂北24\*\* 1934生
- ・麻績村日8\*\* 1930生 ・池田町池田42\*\* 1935生 ・松川村45\*\* 1929生
- ・松川村46\*\* 1929生 ・松川村53\*\* 1931生 ・大町市常盤34\*\* 1935生
- ・大町市常盤46\*\* 1924生 ・大町市社48\*\* 1937生 ・大町市社64\*\* 1934生
- ・大町市大町22\*\* 1935生 ・大町市大町40\*\* 1924生 ・大町市平34\*\* 1944生
- ・大町市美麻299\*\* 1935生 ・大町市美麻305\*\* 1929生 ・白馬村神城214\*\* 1931生
- ・白馬村神城248\*\* 1937生 ・白馬村神城253\*\* 1935生 ・白馬村北城2\*\* 1935生
- ・白馬村北城22\*\* 1929生 ・白馬村北城107\*\* 1934生 ・白馬村北城248\*\* 1937生

### 3. 鳥追いの日時、形態、たたかれる物・たたく物

表1に見るように、鳥追いの日時については1月15日の朝という回答が圧倒的に多い。これをどんど焼きと関連づけてする所もあるが、どんど焼きは別の日にし、それと関係なしにすることも多い。現在では行う日は、成人の日（年によって日が変わる）を基にして決めることが多いようである。

どんど焼きはたいていの場合、男子だけがした。それに対し、鳥追いの場合は、男子だけがしたという所がある半面、女子もしたという所も多い。

鳥追いをする形態は「各戸」と「集団」に分けられるが、どちらもやり方は様々である。集団の場合、どこを何回回るか決まっているなどの所もあった。

調査のときにいろいろ昔の話を聞くことができた。各戸の場合、「隣の家よりも早くやれ」「隣の敷地から鳥が飛んで来ないようにしっかりやれ」などと言われることもよくあった。集団の場合、隣の集落の悪口を互いに言い合うこともあった。最初各戸で始めて、そのうちに、近くの家でもしていることを確認し合ってから子供たちが集まって来て、それで集団で集落を回り始める、ということもあった。

歌を歌うときには何かをたたいて拍子を取りながら歌うのであるが、たたかれる物・たたく物は、表1のように各種各様である。その中で羽子板が多いことに気が付く。旧松本市（2002年時点）と山形村・朝日村にはないことである。それは、生坂・池田・八坂・美麻の方に集中し、白馬には1つのみある。羽子板は市販の物を使うこともあるし、自分で作る、あるいは大人が作ってくれる場合もある。

それをたたくのに杵・槌を使うことが多い。棒を使うこともある。それらの材料は決まっていることが多い。調査のときに、毎年新しく作るかどうかを聞いた。その回答結果は表1に示したとおりである。これについて根掘り葉掘りは聞かなかったが、相当多くが毎年作ると回答している。

杵と槌について。羽子板などをたたくのに使うのであれば両者は同じくらいの大きさであろう。だから何と呼んでも物としての差はないと思うが、面白いことに白馬と小谷では槌とし、それ以外では杵としている。

たたかれる物が小谷では雪かきが多い。子供用の雪かきを使う。雪が多い地方であることを反映している。小谷の回答に板壁が1つある。それはこういうことである。玄関の前に屋根を付けた少し張り出した所を作る。壁は板壁である。それをこの地方のことばでトンボと言う。（渡辺・松沢・原田(1974)に出ている物である）そこから出入りし、壁は蓑などを掛けるのに使ったりする。そのトンボのところで鳥追いをし、板壁の内側をたたくのである。

#### 4. 歌の分類、「した」「しなかった」の分布

調査により様々な歌が回答された。前稿（上條(2012)）で述べたように、松本地方では1つの型が圧倒的であり、他の型はわずかである。それに対し松本以北にはいろいろな型の歌がある。比較的短く単純なものもあり、それが複合した比較的長いものもある。そこで歌詞を基にして次のように分類する。それぞれの名称は歌詞に基づいて付けた。

- ① 今日だれ型 来る鳥型 ニコニコ型 苗代型 頭尻切り型
- ② ニコニコ・来る鳥型 ニコニコ・立っとくれ型 ニコニコ・苗代型  
立つ鳥・頭尻切り型
- ③ 歌なし・語句型

①は歌詞が単純なものである。②は①が複合したもの、あるいは①に別の歌詞が加わったものである。③は歌がなくて語句だけを言うものである。

このように分類したそれぞれの型と、大体同じだが少し違っているものもある。それについては以下で、「変形」と呼ぶことにする。

なお前稿では松本に一般的なものを松本普遍型としたが、本稿ではそれを、今日だれ型 と呼ぶことにする。

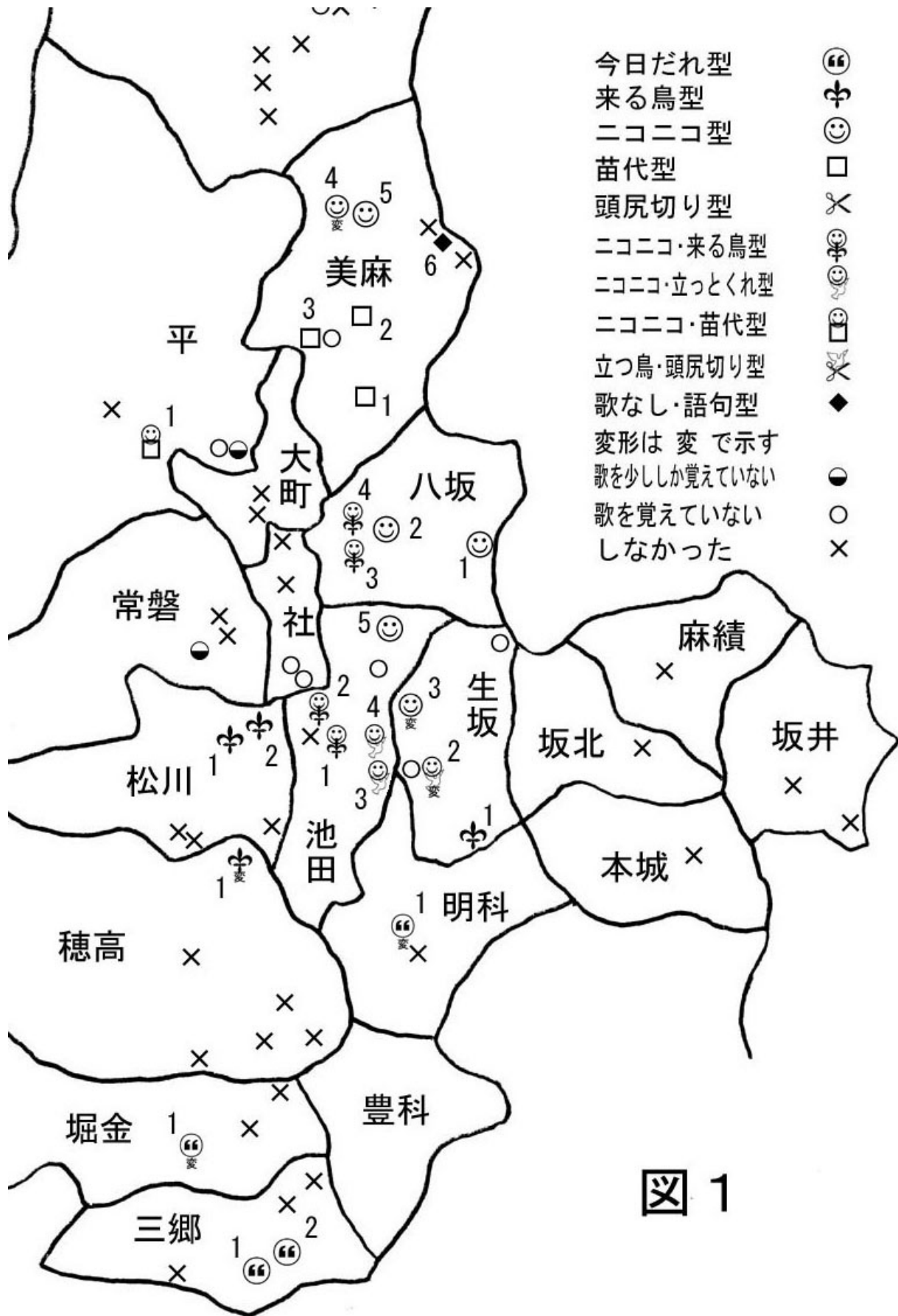


図 1

図 2



この分類を記号で示し地図化すると、図1・図2のようになる。変形については、それぞれの記号の下に 変 を加えてある。「歌を少ししか覚えていない」「歌を覚えていない」「しなかった」も記号で示す。

図1の西の方で地図からはみ出ている部分は、無人または人口希薄の地帯である。

「しなかった」について見る。麻績・坂北・本城・坂井はいずれも「しなかった」という回答である。この地は現在、麻績村と筑北村であるが、以前は筑北四村と言われていた所である。この中で旧坂北村については「『村誌さかきた』上巻（1990年坂北村村誌編纂会）に鳥追いが載っており、高齢者に確認したところ、おぼろげに記憶があるということである」との情報をいただいた。（筑北村職員のご厚意による）この地でも古くは行われたが、早い時期に行われなくなったということであろう。他の「しなかった」と回答している所でも、古い時代にはしていた所が多いであろう。

大町市大町は回答が2つとも「しなかった」となっているが、そこは古くからの市街地である。そういう所では古い時代からしなかったことが自然であろう。同様に池田町池田（図1で「しなかった」の回答の部分）も古くからの市街地であり、しなかったことが自然である。

## 5. 歌の各型

次に分類に従ってそれぞれの型について述べる。

### 5.01 今日だれ型

今日だれ型 は三郷に2例あり、その変形は堀金と明科に1例ずつある。なお変形として1つに括っているが、同じ内容ではなく、違いがある。

今日だれ型 は松本に圧倒的な型であるわけだが、三郷は松本に近いから、それがあることばうなづける。次に 三郷1 の歌を示す。

曲の表記は五線譜を使うべきであるが、印刷上の制約があり、下記のように書くことにする。下記のように曲の主音をレとする。回答された曲全体を見て、このように解釈するのが合理的と考える。（なお渡辺・松沢・原田(1974)は主音をラ(A)として扱っている）拍子は基本的に四分の二拍子と解釈する。下線は低い音階を表す。○は音の出る物をたたく表示である。

ロ長調

レ	ド	レ	ド	ド	レ	レ	レ	レ	ファ <sub>ド</sub>					
きー	は	だ	れ	の	と	り	お	い	だ					
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
<u>ラ</u>	<u>ラ</u>	<u>ラ</u>	ド	レ	レ	ド	ド	レ	レ	レ	レ	ファ <sub>ド</sub>		
じ	ろ	ー	と	た	ろ	ー	の	と	り	お	い	だ		
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
<u>ラ</u>		<u>ラ</u>	ド	レ		ド		レ		レ	レ	ファ <sub>ド</sub>		
お	れ	も	ちよ	っ	と		お	っ	て	や	る			
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ファ	レ	レ	ド			<u>ラ</u>	ファ		レ	レ	ド			
ホ	ン	ガ	ラ	ホ	ー	ー	ー	ホ	ン	ヤ	ラ	ホ		
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

このように4つの楽節から成っている。これが松本に普遍的な 今日だれ型 である。この地で第2楽節は、「北村子供の鳥追いだ」のように歌うこともある。「北村」はこの地の集落の1つであり、それを歌詞に入れて歌うのである。



三郷1 の地区では昔から現在まで絶えることなく、子供たちにより鳥追いが行われてきている。

次に 三郷2 について言うと、歌詞に 三郷1 と少し違いがあり、曲には大分違いがある。ただし基本的構造は同じである。

三郷2 について少し触れておく。これは行事で行った経験のものではない。子供のころすでに鳥追いの行事をしなかった。昔はこういうことをしたものだとして父親に教えられ、鳥追いが行われた時期に、家の中で一家みんなで歌ったということである。こういう話しを聞くと、行事がすたれていく過程の一光景を垣間見る思いがする。

堀金1 は 今日だれ型変形 である。今日だれ型 の前に1行「鳥追いだ 鳥追いだ」を付け加えるものである。こういう歌い方は松本にもある。

明科1 も 今日だれ型変形 であるが、その歌詞は次の如くである。

今日はだれの 鳥追いだ  
 つばくろどんの 鳥追いだ  
 ホンガラホイ ホンガラホイ

これは 今日だれ型 の第3楽節がなくなったものである。ここに「つばくろ」とあるのは興味深い。これに類似のものは松本市本郷地区にあるが、他ではあまり見かけないものである。白馬1 にも類似のものがある。

## 5.02 来る鳥型

来る鳥型 は松川に2例、生坂に1例あり、その変形が穂高に1例ある。松川1 は次の如くである。

変ホ長調

レ	レ	レ	レ	ド	ド	レ	ド	ラ	ラ	ラ			
に	し	の	ほー	か	ら	く	る	と	り	も			
○			○			○				○			
レ	レ	レ	レ	レ	ド	ド	レ	ド	ラ	ラ	ラ		
ひ	が	し	の	ほー	か	ら	く	る	と	り	も		
○				○			○				○		
レ	レ	レ	レ	レ	ド	レ	レ	レ	レ	ラ			
は	ね	は	じゅー	ろ	く	み	は	ひ	と	つ			
○			○			○				○			
レ	ド	ド	レ		ド	レ		ド	ド	レ			
ホ	ン	ガ	ラ	ホ	ー	ー	イ	ホ	ン	ガ	ラ	ホ	イ
○				○				○				○	

松川2 はこれと同じ歌詞であるが、生坂1 の歌詞は東が先、西が後になっている。生坂1 の曲はこれとほとんど同じである。穂高1 はこの変形であるが、歌詞は次の如くである。

向こうの山から 来る鳥も  
 こっちの山から 行く鳥も  
 ホーイホイ

### 5.03 ニコニコ型

ニコニコ型 は池田に1例、八坂に2例、美麻に1例あり、その変形が生坂に1例、美麻に1例ある。池田5 は次の如くである。以下、たたく表示は省略する。

へ長調

ラ	ド	レ	ド	レ	レ	レ	ラ	ド	レ	ド	レ	レ	レ		
い	ち	に	こ	に	に	こ	さん	に	こ	さ	く	ら			
ラ	ド	レ	ド	レ	レ	レ									
ご	よ	ー	ま	つ	や	な	ぎ								
ラ	ド	レ	ド	レ	レ	レ	ラ	ド	レ	ド	レ	レ	レ		
や	な	ぎ	の	え	だ	に	と	り	ゃ	さん	ば	と	ま	つ	て
ラ		レ	ド	レ	レ	レ	ファ	ファ	レ	ド	レ	レ	レ		
お	つ	て	も	た	た	ず	た	た	い	て	も	た	た	ず	
レ	ド	ド	レ									レ			
ホ	ン	ガ	ラ	ホ	ー	ー	ー	ー	イ						

この変形である 生坂3 は、2行目「ごよーまつやなぎ」がない。同じくこの変形である 美麻4 はこの後に「追って 頼む 田の神 田の神」を加える。

### 5.04 苗代型

苗代型 として1つに括ったが、内容に少し違いがある。美麻に3例ある。美麻1 は次の如くである。

ト長調

レ	レ	レ	レ	レ	レ	ド	ラ	ラ	ラ
な	が	し	ろ	の	す	ま	ず	ま	に
レ		レ	レ	レ	ド	レ	レ	ド	ラ

おん   どりめん   こ       じゅー   さんば  
レ    レドレレレ       レレドドレレレ  
おっ   てもたたぬ       たたいてもたたぬ  
レ    ドドレ               ドレ  
ホン   ガラホー   ーイ   ホイ

ながしろ……苗代    すまずまに……隅から隅まで    めんこ……めんどり

美麻2 はこの前に、「もぐらもちや すっぽんぼん きねもちや どっさりこ」を加える。美麻3 はこれと少し違っている。

### 5.05 頭尻切り型

頭尻切り型 として1つに括ったが、内容に少し違いがある。小谷に3例とその変形が4例ある。小谷4 は次の如くである。

へ長調  
レ    レ    レ    ドドレレレレラ  
あ   りゃ   ど    このとりおいだ  
レ    レ    ド    ドドレレレレラ  
く   だ   り    せのとりおいだ  
レ    レ    ド    ド    レレレレラ  
げー   ろ    どん   の    とりおいだ  
レ    レレド    ド    レレレ    ラ  
あ   た   ま   き   つ   て   し   り   き   つ   て  
レ    レレド    ド    レレレ    ラ  
こん   だ   わ   ら    に    つ   め   こん   で  
レ    ドドド    ドドレ    ドドレ    レド  
さ   ど   の   し    ま   へ   ホン   ヤ   ラ   ホ   ー   イ   の  
レ    レドレ  
ホーイのホイ

くだりせ（下里瀬）……この集落の名前。

げいろどん……デーロドン（鳥追い歌にときどきある）からの転か。

こんだわら……こめだわら からの転か。

他の 頭尻切り型 は、これより 1 楽節多かったり少なかったりする。変形はこれを基に大分変えたものである。

小谷にあるのは 頭尻切り型 とその変形だけである。柴田(1970)は糸魚川地方(小谷村に北接する)の調査で、小谷村北部も取り上げている。そこに述べられている歌詞と 頭尻切り型 および変形の歌詞は、章句ごとに一致するものがある。

#### 5.06 ニコニコ・来る鳥型

これは ニコニコ型 を歌ってから、続けて 来る鳥型 を歌うものである。元の ニコニコ型・来る鳥型 よりも短くなっていたり長くなっていたりすることが少しある。池田に 2 例(池田1・2)と八坂に 2 例(八坂3・4)ある。

池田1・2 の地区(池田町会染)と 八坂3・4 の地区では現在それぞれに、子供たちによりこの型で鳥追いが行われている。

#### 5.07 ニコニコ・立っとくれ型

これは ニコニコ型 を少し変えた上で、その後に「キビの鳥も立っとくれ アワの鳥も立っとくれ」を加えるものである。池田に 2 例(池田3・4)ある。変形はそれが少し変わったもので、生坂に 1 例ある。

池田3・4 の地区(池田町陸郷)では、現在子供たちによりこの型で鳥追いが行われている。

#### 5.08 ニコニコ・苗代型

これは ニコニコ型 を歌ってから、続けて 苗代型 を歌うものである。ニコニコ型の「ごよーまつ やなぎ」の部分はない。平に 1 例ある。

#### 5.09 立つ鳥・頭尻切り型

これは「西から東 立つ鳥は」のように 来る鳥型 と類似のものと 頭尻切り型 とが混在したものである。白馬に 2 例あるが、白馬4 は歌を歌うのではなく、口上のように言うものである。

#### 5.10 歌なし・語句型

これは歌がなくて語句だけを言うものである。1 つに括ったが内容には違いがある。美麻に 1 例と、白馬に 2 例ある。美麻6 は「とりおい もぐらおい」と言いながら回るものである。白馬2・白馬3 は「ホーイホイ」と言いながら回るものである。

### 6. 型と分布の考察

図1・図2に基づいて考えられることについて述べる。

ニコニコ・来る鳥形 は池田と八坂にあるが、池田・八坂の ニコニコ型 と松川の来る鳥形 に挟まれた位置にある。このことから、ニコニコ・来る鳥形 は ニコニコ型 と 来る鳥形 が結合して成立したと見てよさそうである。

ニコニコ・立っとくれ型 は ニコニコ型 の近くにある。「立っとくれ」という歌詞はこの型とその変形以外にはない。このことから ニコニコ・立っとくれ型 は ニコニコ型 だけを基にして独自に成立したと考えるべきであろうか。

ニコニコ・苗代型 は ニコニコ型 と 苗代型 に割合近い所にある。ニコニコ型 に苗代型 を取り入れて成立したと考えてよいであろう。

次に 立つ鳥・頭尻切り型 について見る。白馬1 の歌詞全体を示すと次のとおりである。

西から東い 立つ鳥は (東い……東へ)  
おんどり めんどり つんばくら (つんばくら……つばくらと同)  
羽が十六 目が一つ  
かしら切って 尻切って  
ごんだわらへ されこんで (米俵に押し込んで の意であろうか)  
佐渡の島へ ホーイホイ

後半の3行は 頭尻切り型 と同じである。この程度の歌詞だと 頭尻切り型 の変形としてもよいほどである。前半の3行は興味深い。来る鳥形 と似ている。これと似たものが松本市本郷地区にある。その歌の該当部分を示すと次のとおりである。

あっちの山から 来る鳥も  
こっちの山から 行く鳥も  
おんどり めんどり つんばくら  
羽は十六 目はしとつ (しとつ……ひとつ)

このように似た歌詞が白馬と松本という遠く離れた所にあり、またそれと似た 来る鳥形 がそれらの中間にある。このことから、これらと同様の歌詞が以前は広い範囲に広がっており、これらはその残存であるということが、可能性として考えられる。「つんばくら」については、前に 明科1 の歌詞に「つばくろどん」とあることを述べた。これについても同様のことが考えられるかもしれない。

次に型の分布の全体を見渡す。今日だれ型 は松本の近くにあるが、明科1 はその最前線である。その北には 来る鳥形 がある。その北には ニコニコ型 がある。来る鳥形 と ニコニコ型 の中間には ニコニコ・来る鳥形 がある。ニコニコ・来る鳥形 の近くには ニコニコ・立っとくれ型 がある。ニコニコ型 は南と北に分かれており、その中間に 苗代型 がある。このことから、苗代型 の部分に以前は ニコニコ型 があり、そこで新たに 苗代型 が発生したか、別の所から伝わったかして、ニコニコ型 に取って代わったと考えてよいかもしれない。ニコニコ型 と 苗代型 の近くには ニコニ

コ・苗代型 がある。北には 頭尻切り型 とそれに近い 立つ鳥・頭尻切り型 が広がっている。歌なし・語句型 はわずかに点在している。

調査を通じて以上のようなことが分かった。

## 7. 終わりに

以上、松本以北の鳥追いに関して述べた。鳥追いをする日時、形態、たたかれる物・たたく物等、「した」「しなかった」の状況等を見てから、歌について述べた。歌は種類が多い。歌のそれぞれの型を示し、その分布を見て、成立にかかわることも書いた。同じ型のもので歌詞・曲は多様であるので、詳しく見ればいいのであるが、それについては稿を改めたい。

この調査に当たり多くの方々からご協力をいただいた。調査結果をまとめる作業をしてみると、一人ひとりそれぞれのご回答が重要な意味を持っていることを痛感する。皆様の快いご協力を得られてこそできた調査であり、感激に堪えない。衷心より感謝申し上げます。

## 参考文献

- 上條 厚 2012 「旧松本市(2002年時点)・山形村・朝日村の鳥追い」『信州大学人文社会科学研究』6号
- 馬瀬良雄 1977 「長野県上伊那地方及びその周辺地域の鳥追い—鳥追いの歌を中心に—」『信濃』第29巻1号
- 渡辺富美雄 1975 「『鳥追い歌』の言語地理学—新潟県の場合—」『言語生活』No.288
- 渡辺富実雄・松沢秀介・原田 滋 1974 『新潟県における鳥追い歌—その言語地理学—』
- 柴田 武 1970 「鳥追い歌の変遷」『日本民俗学』69号
- 藪原繁里・糸魚川真知子 1968 「上伊那言語調査報告(二)—鳥追い行事—」『伊那路』第12巻12号(第143号)

(信州大学 全学教育機構 教授)

2013年1月18日受理 2013年2月11日採録決定